

■e-黒板ニュース（第22号）：「教育改革」は、まず「授業を変える」ことから

昨日は東京都墨田区立鐘淵中学校を訪問しました。渡部昭校長先生は、昨年度のEスクエア・アドバンス成果発表会に2日間とも参加されて、「電子情報ボードは、これからの授業に必須」と感じられ、すぐに購入されました。e-黒板研究会にも入会され、「数学」と「体育」で使い始められたというメールをいただきました。

今月末には、鐘淵中学校で墨田区の指導主事が訪問する「指導室訪問」があるというので、意見交換・情報交換を目的に学校を訪問しました。「教育改革は、まず授業を変えることから」という校長先生の信念に共感しています。

北海道の山本和彦先生からは、「電子情報ボードが届きました」と、貸出機器が到着した時の様子を、生々しく報告していただきました。

「e-黒板ニュース」を通じて、同じ教科での活用方法をお互いに教えあうなどの、情報共有や意見交換、そして、新しい「知の創造」にまで発展していくことを願っています。みなさまからの「電子情報ボードを活用した授業」の事例や工夫・ノウハウ等の投稿をお待ちしています。

今号の目次：

- =====
1. 学校訪問報告&公開メール：東京都墨田区立鐘淵中学校
 2. 貸出機器到着の報告：「電子情報ボードが届きました」
- =====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。また、配信中止のご連絡もお願いします。

会員の皆様からの投稿もお待ちしています。
宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 学校訪問報告&公開メール：東京都墨田区立鐘淵中学校

東京の北千住駅から東武伊勢崎線で4分。堀切駅から歩いて約10分。墨田区立鐘淵中学校があります。あのTV番組「3年B組金八先生」の桜中学校もすぐ近くにあるという、隅田川と荒川の土手に挟まれた所です。

鐘淵中学校の渡部昭校長先生からのメールによると、墨田区の来年度の研究指定校に選定されたということで、「e-黒板が授業を変える」という題で、2年間の研究を計画されています。校長先生の目指すところは、「授業改善」であり、そのためには「電子情報ボード」は必須の道具ではないかと直感されて、研究を進められているとのことでした。

昨日は、学校内で一番「電子情報ボード」を活用されている、数学の市倉茂雄先生と、11月30日の「指導室訪問」時に授業をされる予定の理科担当の川上朋博先生も参加されて、意見交換をしました。その日には、数学・理科の他に体育も実施予定とのことでしたが、体育の先生は残念ながら三者面談があり、参加されませんでした。

◆渡部校長先生&みなさまへ：

11月30日の「指導室訪問」の授業が、素晴らしい「教育改革」へのステップとなりますように祈っております。また、e-黒板研究会のみなさまのご協力を得ながら、微力ながらもご支援していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

11月30日は、「数学」「体育」および「理科」の授業を予定されているとのことでしたが、私が気がついたことを下記にします。

◆「数学」（市倉先生へ）：

フリーウェア（？）のグラフ作成ツールの活用は、いいアイデアだと思います。

「一次関数」の説明用の画面は、電子情報ボードの「画面保存」機能を使って、主だった場面を保存しておき、必要に応じて提示していくやりかたは効果的かつ効率的だと思います。合同などの証明問題にも、このような方法は、有効でしょう。

電子情報ボードは教材提示に便利ですが、これをあまり使いすぎると、生徒たちにとっては、退屈な時間になってしまう危険性もあるようです。生徒に使わせるなど、参加型にするのもいいかもしれません。

「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROMでは、

◇実践映像-高等学校「数学」- 三角関数の授業で活用した事例（高知県立須崎高等学校）が、参考になると思います。

11月30日には間に合わないかも知れませんが、e-教科書研究会が今年度開発（試作）するデジタル教材や教科書ビューアなどのツールも今後の授業には有効だと思いますので、今後も、e-黒板研究会の活動に注目してください。

◆「体育」:

(三者面談ということで、担当の先生にお会いできなかったのは残念でした。)
11月30日は、プロジェクターとしての機能(「写せる」)のみの活用とおききしていますが、ぜひ、電子情報ボードとしての機能(「書き込める」「操作できる」「保存・再利用できる」や「部品ごとに動かせる(オブジェクト)」)の活用にもチャレンジして見てください。

録画したビデオを再生しながら、先生のアドバイスを書き込んで指導したり、模範演技と生徒の演技を並べて比較しながら再生して、その違いを生徒に気付かせたり、ビデオ再生を途中で止めたり、任意のスピードで再生したりすることができます。

「体育」は、電子情報ボードを活用した事例が結構多いようです。

「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROMでは、

電子情報ボードを活用した「わかる授業」

岡山県取り組み:「みて!みて!IT」

<http://www.cec.or.jp/Ekokuban2004/mitemitelIT/index.htm>

がたいへん参考になります。

○中学・保体2年「とび箱」

○中学・保体1年「マット運動」

が収録されています。

◆「理科」(川上先生へ):

「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROMでは、99本の教材が収録されています。

付録:

IT活用教材標準化委員会提供の

・電子情報ボードで活用できるソフトウェア・コンテンツ一覧(企業名50音順)

があり、中学校理科では、(株)ラティオインターナショナル提供「プロジェクター教材シリーズ 中学校理科」等があります。予定されている単元にぴったりの教材が見つかるかも知れません。

◎平成15年度の成果「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROMは、

<http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/moushikomi.html>

から、申込みできます。(送料のみ負担下さい。)

また、このCD-ROMの内容は、「e-黒板研究会」のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/index.html>

からも閲覧することができます。

アドレスは、

<http://www.cec.or.jp/Ekokuban2004/index.html>

です。

(ただし、「電子情報ボードで活用できるソフトウェア・コンテンツ一覧」以外)

2. 貸出機器到着の報告:「電子情報ボードが届きました」

石狩市立生振小学校(北海道)山本和彦です。

電子黒板無償貸出制度で、申し込んでいた電子情報ボードが届きました。どうもありがとうございました。各学年の授業で活用されています。以下は到着の報告です。

10月27日。その日は校内の研修日。6年生で公開した授業の検討会を行っていた。私は6年担任。その日の公開授業の授業者。しかし、自分の授業を検討されながら心はここにあらざった。なぜか。それは、検討会が始まる直前に電子情報ボードが届いたからだ。この日をずっと心待ちにしていた。

検討会が終わると、学年ブロックの打ち合わせもそこそこにコンピュータ室へ。教頭、4年担任と電子情報ボードを組立て始める。

箱から出てきたのは、バラバラの電子情報ボード。ろくに組立て方を確認しないで作り始める。私の悪い癖だ。案の定、途中で組み合わせ方が分からなくなる…。確認してから作り始めるのが良いことは分かっている。しかし、はやる気持ちをおさえられなかった。部品を組み合わせる向きが違っていたことに気づき、作業再開。分かってしまえば残りは簡単。すぐに組み立て終わった。作業人員3人。所要時間20分弱といったところだろうか。

完成した電子情報ボードは予想よりも大きい。達成感とともに、しばし見とれていた。いつまでも眺めていても仕方がないので、電子情報ボード使ってみることにする。プロジェクターとノートパソコンを準備。プロジェクターの電源を入れながらパソコンにソフトをインストール。一秒でも早く試したかった。ソフトのインストールが完了。プロジェクターの準備も完了。電子情報ボードをパソコンに接続。スクリーンに電子情報ボードの設定画面がうつされた。

電子情報ボードを使うのは初めてではなかった。前任校には電子情報ボードがあった。市内のほとんどの学校に電子情報ボードが設置されていた。ただ、活用されていたかと聞かれると、答えは「否」。他校のことは分からないが、前任校で電子情報ボードはコンピュータ室のホワイトボードとして使われ、何日も前の授業内容が消されずに残ったままということが多かった。今にして思うともったいない話だ。しかし、当時(2年前)は活用方法が分からないというのがほとんどの教師の実態だった。

(今はどうなのだろう)

ディスプレイの右下のコントロールパネルを操作。「たしか、最初にするのは電子情報ボードの設定だったような…。たぶん、ココだろう。」とりあえず、『校正』をクリック。勤が当たっていた。設定終了と同時にコンピュータをボード上で操作してみる。ダブルクリック。「おっソフトが起動した！」スタートからプログラムっと…。「山本さん。C市にあったやつよりも精度が高いんじゃない？」「そうですね。バージョンアップされたのでしょうか。」そんなことを話しながら、教頭とあれこれ動かしてみる。新しいおもちゃを与えられた子供の気持ちが良く分かる。

他の学年の担任も呼び、電子情報ボードの臨時研修会をすることに。まずは、設定から操作方法などを説明。そして、学校にあった提示用の教材をコンピュータへセットし、動かしてみる。「おっ、TVのニュースのやつみたいだね。」初めは、単純にボード上でコンピュータが操作できることをおもしろがっていた。いろいろと動かしているうちに、「これで授業やったら子供の関心ひきつけられるべなあ。」だんだんと真剣な表情に。「明日、国語で主語と述語の勉強するんだよね。これでやったらおもしろいんだろうなあ。」今日届いた電子情報ボードを明日の授業で使うということに。「絶対におもしろいですって、やってみたらどうですか？」係としては使ってもらえる絶好の機会。プッシュしてみた。「そうだね、やってみるわ。」その後は、操作説明だけのつもりだったのが一転、教材研究の場に。その日は、夜遅くまでコンピュータ室の電気が消えることは無かった。

--

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一、南 仁
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====